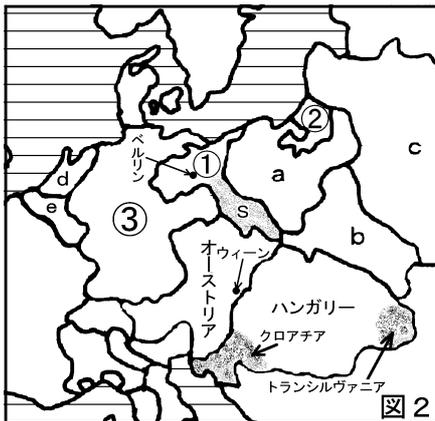


プロイセン王国の成立 そもそもプロイセンとは何だろう

- 1) 13世紀に東方植民の一環として成立したドイツ騎士団領(ドイツ騎士団国とも言う)は15世紀には衰退した。1525年にドイツ騎士団の総長アルブレヒトがプロイセン公を称し、プロイセン公国を樹立した。首都はケーニヒスベルク。
- 2) この地域は「オスト・エルベ」(エルベ川以東)と呼ばれる後進地域であった。入植当時の農民は比較的有利な地位を与えられていたが、15、16世紀に【1: 】(土地貴族)が農民支配を強化し、16世紀には西ヨーロッパでは消滅しつつあった農奴制を復活させ(再版農奴制)、農民に課した賦役労働 ふえきろうどう で【2: 】(グーツヘルシャフト)を経営し、生産させた穀物を西ヨーロッパに輸出した。西ヨーロッパに穀物を輸出し、工業製品を輸入するという、まるで植民地のような役割をはたし、農民は時代遅れの苛酷な賦役労働に苦しんでいた。
- 3) 1618年にプロイセン公国の公家が絶えたため、ブランデンブルク辺境伯(選帝侯)のホーエンツォレルン家宗家のヨハン=ジギスムントがプロイセン公を継承(相続)し、ブランデンブルク選帝侯国はプロイセン公国を吸収合併した。形式上は同君連合であり、正式には「ブランデンブルク=プロイセン」であるが、この段階からプロイセンと呼んでよい。折悪しく三十年戦争が始まり、戦力が乏しい弱小国家だったためスウェーデン軍やデンマーク軍の攻勢によって厳しい状況に追い込まれ、傭兵に蹂躪されたが、**プロイセンは三十年戦争後、急速に成長し、軍事力も強化された。**
- 4) 1701年、フリードリヒ3世 ※1は神聖ローマ皇帝から、スペイン継承戦争 1701-13に参戦することを条件にプロイセン王となることを許され、プロイセンは王国となった。実質併合された方の国号であるプロイセンを併合する側が国号として使っていることが、高校生諸君が一瞬戸惑う原因の一つであろう。図1参照。

※1 ブランデンブルク選帝侯としてはフリードリヒ3世、プロイセン国王としては初代のフリードリヒ1世。

- 5) 図2において、①は【3: 】、②は【4: 】で、②はおよそかつてのプロイセン公国の地域にあたる。Sはシュレジエン地方 ※2、a b cは【5: 】(18世紀、1772・1793・1795年の3度にわたって分割され消滅した。)である。



※2 オーストリア領だったシュレジエンは、フリードリヒ2世(大王)

が第1次(1740-42)・第2次(1744-45)シュレジエン戦争(オーストリア継承戦争を構成する局地的戦役)を戦い、オーストリア継承戦争後のアーヘン和約(1748)で領有を国際的に承認させた。奪回をはかるマリア=テレジアと戦った七年戦争(1756-63、第3次シュレジエン戦争とも呼ぶ)の講和条約であるフベルトゥスブルク条約(1763)で、領有をオーストリアに認めさせ、完全に領有した。シュレジエン領有でプロイセンは列強の仲間入りを果たした。七年戦争の講和条約にパリ条約(1763)があるが、これはイギリスとフランス・スペイン間の講和条約である。

- 6) プロイセン王国の領土は、図2において、①+②。ポーランド分割後はさらにaの部分加わる。では③は何だろう? 「300以上の独立主権を有する領邦が分立」とよく言われるが、それは主としてこの③の地域のことである。③も含めてドイツを統一するのは誰かをめぐり、プロイセンとオーストリアは争いを重ねていく。No.135で詳述する。ドイツの統一は実に1871年なのだ。
- 7) ユンカーはグーツヘルシャフトの経営者に限らず、高級官僚や地方行政官として王権を支えた。将校になって強力な常備軍を指揮したのも彼らであり、プロイセン社会の中心的勢力となった。ドイツ帝国成立後もドイツのリーダーであり続けた。

なお、「ユンカース」というのは人名で、ユンカーとは無関係。第二次世界大戦中の戦闘機のメーカー名でもある。アニメ映画『風立ちぬ』にもユンカース博士という人物が登場する。

16、17世紀のロシア

- 1) 既に14世紀末、ティムールの攻撃を受けてキプチャク=ハン国は弱体化し分裂。15世紀にクリム=ハン国・アストラハン=ハン国・カザン=ハン国が分立。イヴァン3世 位1462-1505はキプチャク=ハン国の本体を攻撃、1502年、クリム=ハン国はこれを滅ぼした。
アストラハン=ハン国、カザン=ハン国は、イヴァン4世に征服されロシアの一部になった。
クリム=ハン国はオスマン帝国の保護下にあったが1774年のキュチュク=カイナルジ条約で形式上独立しロシアの保護国となった後、エカチェリーナ2世の派遣したポチョムキンによって1783年に滅ぼされ、クリミア半島はロシア領となった。
ポチョムキンは軍人でエカチェリーナ2世の事実上の夫。戦艦ポチョムキンの名の由来。
- 2) 16世紀に入り、ヴァシーリ3世 位1505-1533を経て、ティムールの脅威が去った後、イヴァン3世の孫、【6: 】(位1533-84 雷帝)は、ギリシア正教の首長となり、1547年、正式に「全ロシアのツァーリ(王・皇帝)」を名乗った。ただし、「ロシア帝国」が国際的に「帝国」として正式に承認されるのは18世紀のピョートル1世からである。
- 3) イヴァン4世の主な業績
 - ①身分制議会を創設し、中央集権化を進め、貴族を弾圧、農奴制を強化して「雷帝」と恐れられた。
 - ②1552年、ヴォルガ川沿いのカザン=ハン国などを征服。
 - ③コサックの首領【7: 】?-1585にシベリアを探検させた。イエルクは1582年、シビル=ハン国を占領する等領土を広げ、アジアへの進出を開始した。なお、シビル=ハンは「シベリア」の語源とされている。
- 4) 1613年に、イヴァン4世の甥の子、【8: 】位1613-45は、中小の領主や商人たちの支持を得てツァーリに選出された。彼は即位し、【9: 】1613-1917を開いた。彼の治世下、専制政治と農奴制が強化された。この時期、西欧との結びつきはまだ弱かった。ロマノフ朝はロシア革命で打倒されるまで約300年間存続した。

